

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分自身がサービスを受ける立場になった場合、どのような環境でどんなことを望むかを、職員皆で考え、利用者の意見も取り入れまとめ、ホームの理念としている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、職員全員で共有するとともに、サービスを提供する上での基本として常に意識するようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を掲示し、ご家族や地域の方の来苑時には、その内容についての取り組み等を説明し理解を求めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に声をかけてくださる方も増えてきているが、もっと親しんでいただき、立ち寄っていただけるホームづくりに努めている。	○ 道路から見やすい位置に看板を設置し、認知症に対する相談を受け付けていることも、わかりやすく表示した。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われるイベント等へ積極的に参加することで、地元の方との交流の機会が増え、またそれをきっかけとして、ホームへボランティアに来ていただいたり、行事に呼んでいただいたりしている。	○ これからも地域のイベントへの参加を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	良いアイデアや、思いついたことがあれば、毎日の申し送りや月1回行っている全体ミーティングで話し合い、より良いサービスが行えるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は、「評価をされる」という見方ではなく、ホームをより良くする為に、自分達自身を見つめ直す機会としてとらえている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、地域の方にホームの取り組みや理念を知っていただくとともに、ホームに対する意見や要望を聞いたり、地域とホームの関わり方について話し合ったりしている。	○	ホームでの取り組みを地域の方にもっと知っていただき、理解・支援をしていただけるよう、会議の場を活用していきたい。また会議の場を利用して地域情報を収集していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者を中心に市町村担当者との連携をとり、地域の一員であることを意識しながら、協力を得られるよう呼びかけている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	活用している利用者はいないが、職員の勉強会等が少ないため、制度について知り、話し合いをする機会を持ちたい。	○	制度の利用者がいない為、ミーティングの時間を活用し、職員全員でひとつのことを考えたり、話し合い勉強する機会を増やせるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止を徹底し、見過ごすことのないよう、普段から利用者の様子を観察する。職員全員が同じ意識をもって虐待の防止に努める。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には充分説明を行い、利用者やご家族が十分に理解していただき、納得していただけるように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満、不安な点は直接または職員や家族を通して、管理者に伝えることができる。管理者や職員はその意見を受けて運営に反映するよう努力している。	○ 利用者が気兼ねする事なく、何でも意見を出していただけるよう、信頼関係の構築に引き続き努めると共に、利用者の心情の変化や不安などに気付けるよう、常に関心を向ける。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、行事やイベントについて写真入りで紹介するお便り、個人の出納帳のコピー、健康状態などを記した近況報告等をそれぞれのご家族に送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、家族の方等が来苑された際に記入していただけるようにしている。また、入所されている方のご意見に関して、いつでも職員等に相談していただける雰囲気づくりに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、常に職員とコミュニケーションをとり、職員から意見や提案があった場合は、迅速に対応、反映させるように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態によって職員数を確保したり、必要な時に必要な職員が配置されるよう調整されている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	環境の変化が利用者には大きな影響を与えるという事を十分に理解し、必要以外の異動がないようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	知識や介護技術の向上の為に県等が主催する研修会等には、希望者が参加できるようになっている。	○	不定期開催であった苑内研修を、平成20年11月より毎月行っている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修会・相互評価等、同業者と意見や悩みなどを話し合い、互いに向上していける場には積極的に参加している。	○	他の施設の方と交流をし、意見交換をする機会はまだ少ないため、今後も積極的に研修などへ参加していく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者は常に職員とコミュニケーションをとって、状態を把握するとともに、ストレス軽減するための相談や環境づくりを行っている。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は職員等の実績、努力をきちんと評価し、また、研修への参加や資格取得に向けた支援を行い、職員が向上心を持って働けるよう配慮している。職員との個人面談を年2回実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人と接する機会を多く持てるよう働きかけをし、また、本人の表現できない思いをくみ取る為に観察を行っている。せかず事なく時間をかけて理解のために努力している。	○	個々と接する時間をもち、本人の思いを理解するための努力を続けていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族の思いをありのままに受け止め共感する事で信頼関係を築き、同じ思いをもって支援にのぞめるよう努力している。また、不安をとりのぞけるよう、知識や経験をもとにいろいろな提案をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	思い込みや決め込みをせず、本人と家族の思いや要望を理解することに努め、あらゆる角度から対応していけるよう努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方と常に相談・協力しながら利用者の混乱や不信感を招くことのないように配慮をしながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護される側の者にとらえず、生活を共に過ごすものとして、常に寄り添い、互いに助け合い、支え合う関係を築けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるチームの一員として、積極的に家族とコミュニケーションをとり、共に支えていける関係を築けるよう努力している。	○	家族と共に支援するということを常に忘れず、相談・協力をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者それぞれの立場や家族の思いを受け止め、理解することに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまで続けてこられたことを1つでも多く継続していただけるように、本人の希望もふまえて支援に努めている。	○	入所されるとそれまでの馴染みの方との交流が減ってしまったり、馴染みのものを我慢されることも多いため、少しでもそれらを途切れさせることのないよう努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの個性を理解、尊重し、また利用者同士が支えあい、助け合える関係を作れるよう、努めている。	○	利用者同士のトラブルを未然に防ぐことができるよう、観察、予測し、居心地の悪い思いをすることのないよう、工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、関係を断ち切ることをせず、希望や必要に応じて、相談に応じるなど柔軟に対応している。	○	契約の有無に関わらず、人とのつながりを大切にし、温もりのある関係を苑内外の方と作り上げていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合った生活スタイルを尊重し、できる限りのことは本人の意向のまま生活できるようサポートしている。集団生活のため、できる事は限られているが、利用者を1番に考え努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者にとって最適な状態を把握し、わからないことがあれば家族が来られた時に尋ねる等をし、良い生活環境へ一歩でも近付けるようケアをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の性格や習慣を大切にし、利用者一人ひとりが自分らしくいられるよう理解するとともに必要な援助を行っている。	○	何もされない時間を少しでも減らし、編み物や野菜切り等をしていただいている。同じ事ばかりでなく、違った事にも挑戦していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりについて家族、主治医等の関係者と常に連携をとり、意見などをいただきながら、本人がより良くなるように工夫をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にサービス担当者会議で介護計画の内容について話し合うとともに、状況が変化した場合にはすぐに家族などと連携して、現状に対応できるような計画を作成し、ケアを行っている。利用者やご家族が不安や不満を抱かないようにする為にはどうすればよいのかを考えて、居心地よく生活できるよう話し合い、新たな計画作成に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に加え、業務日誌、申し送りノートを活用して必要な情報を全員で共有できるようにしている。	○	効率よく記録が記入でき、情報の共有とケアプランへの反映が行われるような様式を検討中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	決めつけや制限をできるだけ無くし、生活の場としてできる限り本人と家族の希望に沿えるよう工夫をしている。あらゆる方法について案を出し合い、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して、緊急時の対応など必要な時に援助をしていただけるよう働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者個人の意思を尊重しながら、より良いサービスが受けられるよう、定期的に個々に関する会議を行い、担当職員・管理者・ケアマネジャー・看護師が参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、対応し、相談など行っており、今後は運営推進会議にも参加していただく予定である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族から申し出があった場合、希望するかかりつけ医に受診し、納得した形で適切に医療を受けられるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週2回のホームドクターの往診に加え、週1回の専門医の往診で職員や利用者から相談ができ、アドバイスをいただけるようになっている。	○	引き続き連携をとり、認知症に関する知識を深めるとともに、適切な対応がとれるよう、努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護職員が常に利用者の個々の状態を把握し、変化にはすぐに対応できるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、担当の医師や看護師と情報を交換し、その方に合った治療・ケアが行えるよう協力している。退院後の対応についても十分に意見交換を行う。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期についてミーティングで話し合い、職員の意思を統一すると共に具体的な対応に関して意見を出し合っている。また、家族等にもその意向を伝え、理解を求めている。	○	早い段階より、繰り返し話し合い、情報の共有化を図っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合の対応について、自分たちができることを話し合い、また、かかりつけ医も含めたチームでの支援ができるよう具体化を進めている。ミーティング等で少しずつでも話題にすることで意識を高めていくようにする。	○	終末期ケアについては準備の段階であり、職員内はもちろん、家族や医師との話し合いや意思確認を今後も行っていく必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化が及ぼす影響を十分に理解し、住み替え後も本人の混乱を招いたり、違和感を感じることをのまないよう関係者全員で情報を交換し、案を出し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、敬う気持ちを忘れずに接する。言葉かけひとつひとつにも気を配り、個人の誇りやプライドに充分配慮する。記録や個人情報は必要な時には充分注意して扱い、むやみに持ち出さないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が主体となる生活を基本とし、利用者自身の意思や自己決定を尊重する。また、希望がうまく表せない方には、個々の力に合わせて支援し、できる限り意思を汲み取れるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらが決めた日課や都合を押し付けず、1日の流れを作る支援をしつつ、その中で一人ひとりのペースを守っていただき、自由に過ごしていただけるようにしている。	○ 個人のペースはある程度守られているが、どのように過ごしたいか、何をしたいかという希望をうまく引き出せず、なんとなく時間が過ぎていくこともあるので、もっと個々と接して希望を引き出していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院がある方は、希望するところへ行っていたりするようにしている。また、そうでない方は、利用しやすいところを探して利用していただいたり、出張美容を利用していただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に、日々の食事に旬のものを取り入れるようにしている。また、行事やイベントの際には、それに即した食事を提供するようにしている。また、職員も一緒に食事し、楽しい雰囲気づくりを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態を考慮した上で、主治医などとも相談しながら、本人が望むものをできるだけ制限しないようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握することに努め、排泄誘導を行うことで、本人の不快感や混乱を少なくし、おむつに頼らない排泄介助をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っていたけるようになっており、可能な限り希望するタイミングで入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や就寝時の居室の状態(明るさ・室温等)、利用者それぞれが安心して休息できるように個々に合った環境を作るよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の性格や特技を活かして自分らしい形で役割を見つけていただけるように提案、支援している。	○	興味をもっていただける提供のしかたや継続していただくための呼びかけ等、工夫していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方に対しては、無理に預かることはせずご本人の意思やプライドに配慮して、安全に管理できるようさりげなく支援している。こちらで管理させていただく場合は、家族の方に支出の内容がはっきり分かるよう、月に1回請求書と一緒に、出納帳とレシートを送付して、確認していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い日は、気分転換や地域との交流も兼ねて、近所へ散歩に出かけたり、買い物に出かけている。また、いつでも苑庭を散歩していただけるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に何度か「外出の日」をもうけてユニットごとに外食に行ったり、ドライブに行ったりしている。また、天気の良い日はお弁当を持って公園へ行ったり、季節ごとのイベントや行事に出かけるようにしている。家族の方には月々のおたよりで告知し、参加していただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方はいつでも電話をかけられるようになっており、電話機の使用が難しい場合は職員が支援をしている。手紙も同様に、いつでもやりとりをしていただけるよう、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただける雰囲気づくりを行い、また、職員から積極的にコミュニケーションをとることで親しみをもってもらい、訪問しやすいイメージづくりに取り組んでいる。	○	明るく、ひらけた雰囲気づくりのための工夫を続けていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員が勉強し、それを行わないケアについて理解をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放しており、居室にも鍵はかけない。利用者が望まれた場合には、本人の意思によって自ら居室内側より鍵をしていただけるようになっているが、職員が鍵をかけることはない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全を最優先しながらも、行動の制限はできるだけないようにし、本人の意思を尊重して見守りを行う。	○	利用者一人ひとりの行動パターンや様子を把握し、安全第一でケア・見守りを行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の意思や希望を妨げることなく、危険を防ぐ努力をしている。こちらが管理する場合も本人の了解・理解を得るよう努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の性格・行動パターンや注意すべき特徴などを全員が把握し、また、ヒヤリハットを活用して、注意点についての予防策を話し合い、事故防止に努めている。	○	事故防止に努めると共に、緊急の場合の対応について勉強会を行うなど、より知識を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応についてはミーティング等で常に話し合うようにしているが、応急手当や処置の仕方を理解し実行できる職員が少ない為、訓練の場をもうけたり、講習などに積極的に参加する必要がある。	○	応急手当についての講習を受ける等、すべての職員が事故発生時の対応を行えるように努める。また、緊急時に備え、AEDを設置予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。また、運営推進会議等を通して、緊急時の避難等に関して地域の方に協力を依頼している。	○	訓練を定期的に行い、地域の方々からも引き続き協力をしていただけるよう日常的に働きかけを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	行動の制限をできるだけなくしながら、より安全にその人らしく暮らしていただけるよう家族とも相談しながらケアを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に一人ひとりの健康状態を把握し、異変にはより早く気付くことができるように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの薬剤情報をよく読み、用法や効能または副作用について充分理解をしている。(不明な点はその都度医師に確認している。)薬は食事のたびに手渡すようにし、必ず全員の服薬確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について充分理解をし、原因となるものへの対処法を話し合い予防に努める。下剤を服用されている方は特に排便の有無・形状・量を詳しく記録し対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の力に合わせて声かけ・介助など過剰にならないようにしながら支援を行っている。義歯の方は定期的に義歯洗浄剤による洗浄を行っている。口腔ケアについては食後事務的にならないようにし、タイミングを見計らって声をかける。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	職員のマニュアルの把握を徹底し、感染症を予防する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○	訪問者を気持ちよく迎えられるよう、心がけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活をする中で、改善点があれば家族や利用者と相談をして心地よく過ごせるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	除湿・加湿等行いながら、室温調節を行っている。また、体調に合わせて調節を行っている。本人が居室におられない時には、窓を開け換気を行っている。気になる臭いのある部屋には、消臭剤も利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの機能を活かしていけるよう、できる範囲の事は自分でしていただいている。できる・できないの判断は利用者の様子を見ながら提案している。	○	今後も利用者の安全に配慮しながら、個々のプライバシーの保持や暖かい環境づくりを心がけていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのパターンを把握し、この先に起こりそうな事を予測しながら、利用者が気落ちしないような環境づくりに心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭には花壇・畑があり、花や野菜の成長を見たり、手入れをし、収穫することができる。また、外周りには散歩や運動・レクリエーションを行えるスペースもあり、活用している。また、能力に応じ居室、ベランダで洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・旧吉野川のほとりにある木の建物で、季節感を大切にしながら、自宅に在るかのような感覚で生活をしていただいている。
- ・入居者様お一人おひとりに対して「できること探し」を行い、いつまでも生きがいと役割を持った生活を送れるよう、職員はさりげないサポートを心がけている。また、そのことが、認知症の進行を緩やかなものにしておりと自負している。
- ・車椅子を利用しているほぼ全介助の入居者様にも、自立の方と同じように外出の機会を設け、社会とのつながりを大切にしている。
- ・季節の行事を大切に、昔を振り返りながら楽しめるようにしている。また、夏季には花火大会等夜間行事も行っている。
- ・ホーム内には季節感を取り入れた掲示物の展示を行い、ホーム内でも季節を感じる事ができるようにしている。また、入居者様と職員が共に掲示物の作成を行い、和気藹々とした雰囲気を作りしている。
- ・ホームの敷地内に庭や畑があり、入居者様が自由に出入りできるようになっている。庭ではレクリエーションや日光浴・おやつが楽しめるよう、テーブルとベンチを設置し、また、畑では家庭菜園に取り組み、入居者様と共に季節の花や野菜を育て収穫し、玄関に生けたり食材に活用したりしている。